

もう一つの学校

八戸あおば高等学院から

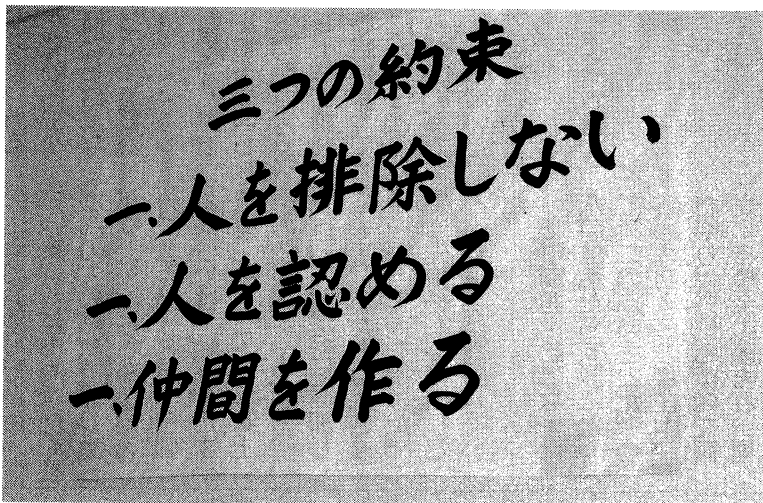
子どもの健やかな成長を願うからこそ、見守る大人は子育てへの悩みが尽きない。その苦悩は、親同士が共有することで救われるときもある。八戸あおば高等学院の保護者会「あおばの会」では、定期的に親たちが集まり、互いの心境を打ち明ける。
(玉川那津美)

保護者会「あおばの会」

心境打ち明け 悩み共有

あおばの会は5、7、11、1月の年4回開催。▽教育相談員の小野寺高德さんからの話題提供▽出席者の自己紹介▽保護者同士の近況報告と情報交換▽教員との個人面談などを実施している。子どもの自立を支援するため、家庭と学校が情報を密にする大切な場として位置付けられている。

家庭と学校つなぐ大切な場



八戸あおば高等学院の一室に掲げている「三つの約束」

に頑張ったと思っ... ば学院に入り)環境が... 変わる、最近では明るく... 安になり泣いていないと... きも「いついつい将来... はどうするんだと言っ... てしまう」「数カ月前... に入学した。行かない... とときもあるが、(あお... ば学院に入り)環境が... 変わる、最近では明るく... 安になり泣いていないと... なる。今解決策が見つか... らなくとも、似た心境... を分かち合うことでI... 人じゃないと確信でき... る。



保護者にバランスが取れた食事の大切さを訴える佐藤千恵子教授(右)。左は小野寺高德さん
=7月下旬

小野寺さんは「いいところを見つけ発展させる『加点的成長法』の良さを親にも伝えたい」と話す。「ダメ出し」の「B」さん。簿記検定が受かって努力が実るうれしさを学んだはずです」と褒め、子どもだけでなく親の自信にもつなげる。

年数回、子育て情報提供

先月末は食育テーマに

八戸あおば高等学院には、食育に取り組むの保護者会「あおばの会」では年に1、2回、教授が出席し、食事の外部講師を招き、子育てに関する情報を提供した。佐藤教授は、子どもを育てたいと強調整する。親が心身共に元気になる。勉強も大事だが、せない要素だという。この会を開く意義も影響しかねない。日々、家庭の苦しさや話、渡校長は「生徒の心は毎日変わるから、何を育てたい」と強調する。すればいいかも変化する。方で、最近では大人も食生活が乱れていると指摘。小中学生はしっかり食事を取っているが、中3から高校生にかけて欠食が多くなる。と、親が食べない、子どもも食べない。だからこそ、大人に食の大切さを伝えたいと呼び掛けた。参加した保護者は「炭酸飲料をよく飲む」「朝食を食べない」など、講話を基に子どもの食生活について真剣に話し合っていた。佐藤教授は「親の子どもを思う気持ちに、かつて自分も子育てに悩んでいたことを思い出した。どんな状況でも、親子でぶつかり合っ、今を乗り越えてほしい」と話していた。(玉川那津美)

子どもを育てる

毎週金曜日に掲載

この企画への意見をお待ちしております。取材をお願いする場合がありますので、連絡先を添えてください。断りなく氏名などを紙面に掲載することはありません。宛先は、〒

031-8601 (住所不要) デーリー東北報道部「あおば学院取材班」へ。ファクスは0178(45)5900、電子メールアドレスはaoba@daily-tohoku.co.jp



2015年(平成27年) 8月7日(金) (旧暦 6月23日) 仏滅

デーリー東北新聞社 7031-8601 八戸市城下1丁目3-12 ☎0178-44-5111 ©デーリー東北新聞社2015